



2015年4月号

弟とのケンカを仲裁したら「お母さんは弟ばかりに甘い」と長女。どんな言葉をかけてやったら・・・。



論理アタマが育つポイント

まず、お母さんが娘に共感すること。
そのうえで、娘が視点を変えて
他者の気持ちを考えられるように導きましょう。

子どもが欲しいのは
言い訳ではなく共感

設問では、上の子がお母さんに対して「下の子には自分よりも、親の態度が甘いのではないか。そのために自分はガマンばかりさせられている」と感じ、批判をしています。このような状況に直面すると、親としては動揺してしまうかもしれませんが、子どもに「視点を変える」経験をさせるには

「人の気持ちになつてみる」とは、どういふことでしょうか？ 自分ではない誰かの心の中を想像することでしょうか？ なんだか、少々ややこしい話ですね。

では、こういう言い方にしてみたら、少し違ってくるかもしれません。「その人の視点に立ってみる」。つまり、その人の立場から、物事がどのように見えているか、ということですね。

たとえば、子育てにおいて大切なこととして、しばしば「子どもの目線に高さに合わせて考える」ことがあげられますが、これも「視点を変える」例のひとつです。ただ、大人にとつては、このように言葉だけで説明できますが、子どもには実感がともなわないうと少々むずかしいように思います。

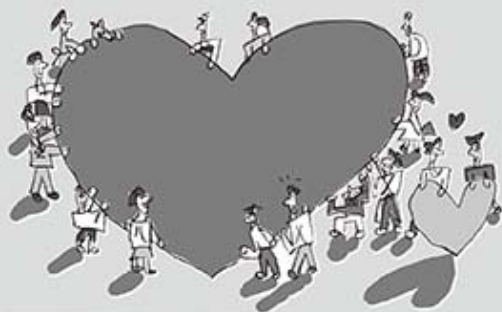
視点を変えるには
気持ちの余裕が必要です

日ごろの不満をはき出し、お母さんに受け止めてもらえたら、高ぶっていた感情もおさまってきます。弟やお母さんの視点に立ってみる気持ちのゆとりも生まれてくるでしょう。

そうやって初めて傍観⑤⑥のように、「母親としては、姉と弟の仲がいいこととはうれしく思う」が、「正直な

いいチャンスです。
とはいっても、子どもにしてみれば切羽詰まってる発言ですから、お母さんや弟の立場に立って考えてみるような余裕はありません。傍観①のように、「そんなつもりではなかった」とお母さんが言い訳しても、子どもには何の説得力もありません。それで悲しい思いがなくなるわけでは無いのですから。

まず、上の子に必要なのは傍観②のように、共感する言葉。それから、傍観③のような「あなたの気持ちを」と聞かせて、「お母さんの思いが伝わる言葉です。場合によっては、気づかないまま心を傷つけていたことを謝ってもらいやすいのではないだろうか(傍観④)。



出口先生の小学生のママ向けサイトがオープン！
「クーンと伸びる、小学生の子カラ」<http://www.deguchi-hiroshi.com/kodomo/>

「ママのための日本語トレーニング」は、今月で終了します。ご愛読ありがとうございました。

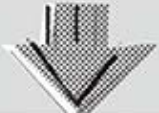
今月のお話し 伝える技術 10

弟とのケンカを仲裁したら「お母さんは弟にばかり甘い」と長女。どんな言葉をかけてやったら……。

母「いつも、平等にしてくれたつもりだけど……」
娘「コウタはいいよね。お母さんが慰めてくれて」
母「まだ、幼いのよねえ」
娘「だって、もう小1だよ」
母「そうだけど……」
娘「私が小1のころ、あんなにめめめしなかった」
母「あなたは、しっかりしてたから」
娘「お母さんに抱っこしてもらわなかった」
母「どうしたのよ、急に」
娘「急にじゃない。いつも思ってたよ！」

問題文

ある日、長女(小5)と長男(小1)が大ケンカ。いつになくヒートアップして、つかみ合いになったのでさすがに止めました。めめめそ泣く長男を慰めていたところ、それを見た長女が「私はいつもガマンしてる」と、ひと言ほり。



娘の言葉を受け入れる姿勢が大切です

母「そんなふう感じてたの」
娘「コウタはいいよね。お母さんが慰めてくれて」
母「そういうのを見ると嫌な気持ちになる？」
娘「私が小1のころ、あんなにめめめしなかった」
母「がんばりやさんだったよね。でも、お母さん、あんなに少し甘えてたのかも。そんな思い出しているなんて気づかなかったもの。ごめんさい」
娘「どうしてコウタを甘やかすの？」
母「コウタはすぐ泣いちゃうから。みんな違うよ、少しずつ」
娘「そうだけど……」
母「もつとあなたの気持ちをわかってあげてたら、よかったのよね」
娘「私だって、コウタとケンカしたいわけじゃないし……」
母「お母さんは、ふたりが仲良くしてるのを見るのが大好き。でも、あなたにガマンしてほしいわけじゃないの。今日みたいに打ち明けてくれるとうれしいな」

解答例

ママのための日本語トレーニング 最終回

子どもから批判されてドキリとしたことはありませんか？ 成長とともに、子どもは親に対しても自分なりの考えをもつようになり、成長のあらわれとしてしっかりと受け止めてあげたいものです。

出口 汪 てくち・ひろし
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として「論理エンジン」を開発。執筆した受験参考書の売り上げは累計600万部を超える。小学生向けの「出口汪の日本語論理トレーニング」シリーズ(小学館)が好評発売中。